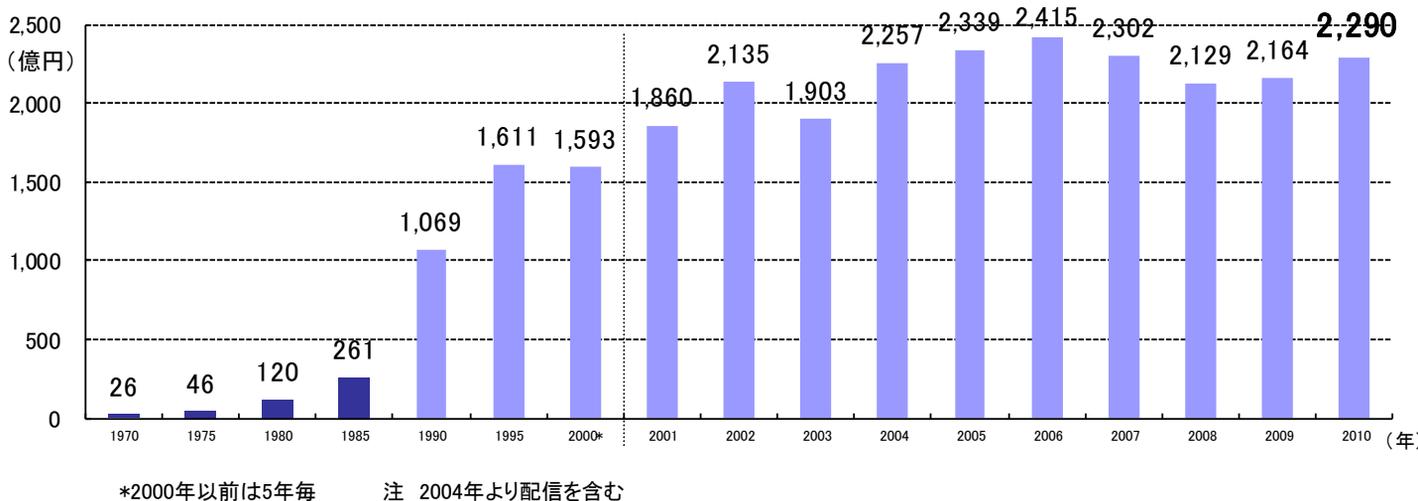


2010年のアニメ市場は2年連続の増加

◆アニメーション市場規模の推移<1970-2010年>



弊社が毎年実施している「アニメーション市場分析プロジェクト」の調査結果がまとまりましたので、その一部を発表いたします。

2010年(暦年)のアニメーション市場規模は2290億円で、前年比105.8%の増加となりました。劇映画のヒット作が市場を左右するという近年の傾向を反映したデータとなっています。

劇映画は、好調だった前年をさらに上回りました。邦画は「借りぐらしのアリエッティ」が92.5億円、洋画は「トイ・ストーリー3」が108.0億円の興行収入を記録し、市場を牽引しました。

テレビアニメについては2006年をピークに放送本数が減少を続けており、地上波の市場は縮小傾向にあります。一方、衛星・CATVのアニメチャンネルの視聴者数は増加し、有料放送の市場は引き続き拡大しています。さらに2011年にはアニマックスのBSチャンネルの放送が開始されるため、視聴者増が期待されています。

セルビデオではアニメの存在感が高まっています。ビデオソフト市場全体は前年比減となっていますが、アニメに関しては増加に転じました。特にブルーレイでは、売上出荷金額の約6割をアニメが占めています。レンタル市場は、消費の落ち込みや客単価の減少の影響で縮小が続いています。

PC向け有料配信の市場が伸び悩む一方、携帯向けアニメ配信市場は拡大し、額は小さいながらも市場の伸びに貢献しました。スマートフォンの急速な普及に伴って、携帯端末での動画視聴は今後さらに広がり、アニメ配信市場にも影響してくると予想されます。

この2年の市場の伸びを支えているのは、洋画のヒット作です。邦画は「ポケットモンスター」等に代表される人気作品が毎年市場を下支えています。洋画はヒット作の有無によって各年で大きく市場が変動します。2009、2010年は洋画のヒット作が劇映画とビデオソフトの市場拡大に寄与し、アニメ市場全体の伸長に影響しました。

<市場の範囲>

・劇場用アニメ、アニメビデオソフト(セル/レンタル)、テレビアニメ、配信(PC、IPTV、携帯向け)

注)算出に際してはユーザー支出レベルで統一しています。ただしユーザーが直接支出に関与していない地上波およびBS放送で放映されたアニメに関しては、制作費を市場規模として採用しています。

<本リリースに関するお問い合わせ>

株式会社 メディア開発総研 担当:戸口、柳川 TEL:03-5261-8927 FAX:03-5261-8928 e-mail:info@mdri.co.jp

引用、転載される場合は、クレジット(メディア開発総研発表)を入れていただくか、上記担当へ連絡を願います。